

2021年度 生徒募集中



イラストじっくり塾
絵本ゆっくり塾
絵本わくわく塾



kaiwajuku
絵話塾 

<https://www.gallery.jp>

illustration・Tsuda Motoshi

絵話塾は絵本と イラストを学ぶ 特別な教室です

絵話塾(かいわじゅく)は、第一線で活躍中の絵本作家やイラストレーターが講師を務める、実践的な講座です。日々の暮らしを楽しく彩りたい方からプロの絵本作家やイラストレーターを目指す方まで、幅広く対応しています。絵が好きでこれから描いていこうとする方に対して、さまざまなメディアで見かける憧れの先生から、直接アドバイスやサポートを受けながら授業を進めていきます。本やインターネットからでは絶対味わえない、情熱や空気感まで体験できる貴重な授業です。先生方は皆さんフレンドリーで親しみやすく、和気あいあいと楽しく学んで、絵話塾を修了する頃には確実に成長できているでしょう。

※開塾から17年を経て、卒業生の中にはプロで活躍中の方も
沢山おられます。

特 徴

●第一線で活躍している作家が講師陣

教えるプロの先生ではなく、実際に第一線で活躍中の作家が講師。
だから実践的でオモシロイ。

●他の講座もスポット受講できます

在籍中のクラス以外でも興味のある他のコースも、卒業生・在校生なら
受講できます。(有料)

※イラストレベルアップコース・ドローイングクラス・文章たっぷりコースは、
スポット受講ができません。

●先生との距離が身近に

授業が終われば、憧れの先生と直にお話ししたり、アドバイス等がも
らえる場合があります。

●修了展の開催(参加費無料) ※但しDM代として500円いただきます。

1年間の授業が修了すれば、教室の隣のギャラリーVieで2週間の修了作
品展を開催いたします。参加は自由です。



絵話塾 本科は3コースあります

絵本ゆっくり塾

■特徴

「絵本ゆっくり塾」は、絵本のプロとして第一線で活躍されている講師の方々と共に、ゆっくり学んでいくコースです。

将来絵本作家になりたい方はもちろん、プロは目指さないが自分自身や、誰かのために絵本を作ってみたいという方まで、幅広く対応しています。

■授業内容

このコースでは絵・ストーリー・画面構成・ページ構成など、実際の絵本制作に則したことや、制作上の心構え、編集者目線で絵本の考え方、出版社への売り込みに関することまで、知識や技術の習得だけでなくメンタル面で絵本にとって必要なことも学んでいきます。

例えば、A先生は本の成り立ちからアイデア出しの方法、画材の使い方・選び方といった絵本の作り方全般について。B先生は実験的なミニ絵本をその場で制作・講評。C先生はテーマを決めて様々な形態の作品を完成させるワークショップ。D先生は編集者の立場から絵本に関するお話と作品講評を行う、等々。このように個性豊かな講師のアドバイス・考え方を吸収して、絵本作りに必要な「something」を学ぶことが出来ます。

■開講日

2021年7月下旬頃から約1年間
(冬休みあり)

■講座数

年間60単位/1単位=1時間

■日時

Aコース/日曜日午後2:00~4:00
Bコース/日曜日午後5:00~7:00

■定員

※Bコースは10名以上で開講
A・Bとも各約15名

※授業は2時間が基本ですが、3時間授業の場合もあります。※各コースとも開講日は変更になる場合があります。

絵本わくわく塾

■特徴

「絵本わくわく塾」は、週末の授業には出られない人や、絵だけではなく、文章も深く学びたい方のためのコースです。

「ゆっくり塾」と同じく、絵本のプロとして第一線で活躍されている講師の方々と共に、わくわくしながら楽しく絵本と取り組む講座です。将来プロを目指す人はもちろん、絵本が好きでもっと奥深く学びたい方まで、幅広く対応しています。

■授業内容

このコースでは絵本作家や編集者だけでなく児童文学作家もおられるため、絵と文章をセットで学んでいきます。もちろん「ゆっくり塾」と同様、絵・ストーリー・画面構成など実際の絵本制作に則したことや、制作上の心構え、編集者から見た絵本の考え方、出版に関するさまざまなお話。

例えばA先生はお薦め絵本の読み聞かせをしたり、B先生は漢字を使わないで文章を組み立てたり、C先生は絵本作りのきっかけになるアイデア出しの方法を実際に試してみたり、D先生は普段なかなかできない方法で絵を描いたり多彩な内容です。

個性的な絵本を作っておられる講師の方々、あなたの絵本作りの応援をします。

■開講日

2021年7月下旬頃から約1年間
(冬休みあり)

■講座数

年間60単位/1単位=1時間

■日時

水曜日 午後2:00~4:00

■定員

約15名

イラストじゅっくり塾

■特徴

「イラストじゅっくり塾」は、絵を描くことが好きでもっとスキルアップしたい人や、暮らしの中で使える絵を描いたり、絵を仕事にしたい方にもお勧めのコースです。

プロのイラストレーターとして第一線で活躍されている講師の方々のテクニックや、経験に即したさまざまなお話を聞いたり、作品を講評してもらいながら、各自のレベルに合わせて自分だけのオリジナルなイラストを、じゅっくり作りあげていく講座です。

■授業内容

このコースではイラストレーターの仕事のカテゴリーに入るさまざまな作品を実際に作っていきます。クロッキー、書籍の装画、CDジャケット、オリジナル雑貨、粘土で作る立体キャラクターなど。それぞれ独自の作風を持つ先生方と一緒に、色々なアプローチで自分の絵の世界を拡げていきます。使ったことがない画材や、自分では思いつかないような表現、多彩なテーマに沿った作品を制作することで興味が広がり、技術的にも精神的にも成長できます。またプロが仕事の現場で実際に経験した生きた言葉は、これから皆さんが絵を描いていく上でのヒントになるはずです。

■開講日

2021年7月下旬頃から約1年間
(冬休みあり)

■講座数

年間60単位/1単位=1時間

■日時

土曜日 午後2:00~4:00

■定員

約15名



知っておきたい基礎知識

コラージュ (Collage)

絵話塾の講師の中にも、コラージュという手法を使って制作されている方がいらっしゃいます。コラージュとは何かを説明する前に歴史を少しお話いたします。

コラージュの歴史

コラージュは、「糊で貼り付ける」という意味のフランス語の「coller」に由来することばです。コラージュの起源は諸説あるのですが、ファインアートとして最初に用いた人は1912年にピカソとブラックがコラージュを使い始めたこととされています。

コラージュとは

色々な素材(紙・新聞紙・雑誌・パンフレット・切手・毛糸や段ボールなど)を用いて、ハサミなどで切り糊を使って貼り、作品を仕上げることです。また写真を素材にしたものはフォトモンタージュと呼ばれ、複数の写真を切り貼りすることで1枚の写真とは違った表現になります。

さまざまな画材で描いた絵と組み合わせる場合もあります。自分で色を塗った紙を切って貼り絵にしたり、絵画の一部にポイントとして、何かを貼る場合もあります。

コラージュで注意することは、著作権の問題です。雑誌の人物や画集などを用いて作った場合、友だちなどに見せるのはいいのですが、営利目的では注意が必要です。著作権の切れたものを用いるか、元の素材がわからないように気をつけましょう。

コラージュ作品を作るポイントは、あまり難しく考えないで、自分の気に入った素材があれば、ハサミなどで切り、糊を使って紙に貼り付けていけばいいのです。



2021

コース紹介 — 2

絵本ゆっくり塾 — 4

授業風景

絵本わくわく塾 — 6

授業風景

イラストじゅっくり塾 — 8

授業風景

おすすめ図書 — 10

秋からの講座 — 11

ドローイングクラス
イラストレベルアップ
文章たっぷり

講師PROFILE — 12

卒業生の声 — 18

Q&A — 19

入塾までの流れ — 20

申し込み用紙 — 21



絵本ゆくり塾

■講師
荒井良二 飯野和好 太田朋 木村真
スズキコージ 高島那生 土井章史
はやしますみ WAKKUN (五十音順)

「絵話塾」では、絵本を教えるプロではなく、実践で活躍されて本もたくさん出版されている作家や編集者が講師を務めています。先生の名前を聞いてもピンとこない方も、絵を見れば分かる方も多いと思います。

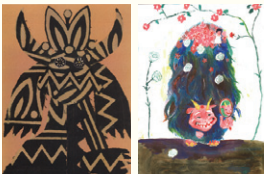
授業内容は、教えるというより先生が今まで経験したことを生徒さんに伝えるような授業です。ですから「僕は先生ではないから、名前でご呼んでね」という方もいらっしゃいます。

絵話塾に入る前、「絵はあまり描いたことがないのですが、入ってからは描けるかどうか不安です」という声をよく聞きます。たしかに生徒さんの中には始めから絵が達者に描ける方もいますが、それよりも大事なことは、絵本を作りたいのに絵を描いたことがないで自分で理由をつけて、あきらめてしまわないことです。誰にでも「最初」があります。



スズキコージ/
制作
音楽を聴きながら

スズキコージ/(上)授業の制作風景。
(左)生徒さんの作品。今回のテーマは「美女と野獣」



太田朋/エピソード絵本の発表



はやしますみ/絵本のダミーを
発表後、先生からの
アドバイス

太田朋/版画制作

土井章史/編集者から見た
絵本のお話



高島那生/普段描いている絵を
生徒さんの前で披露。背景から
色を付けています



高島那生/完成した絵



先生からのコメント

荒井 良二
この塾の面白さは独特だ。発想の元を考えるだけでなく発想の素を身につけることを実践しているからだ。それも独特な活動を楽しむ独特すぎる！講師たちと物を演出する喜びを目の当たりにできるからだ。
Arai Ryoji

advice

たくさんの絵本を読み込むことも大切。

- 絵本はここではない、別の空間に誘ってくれるもの。
- 絵本は、絵を描く力も大切だが、読む力も同時に必要。出来るだけたくさんの絵本を、何回も読めば新たな発見がある。
- チャンスはみんな平等にある。チャンスをつかむには握力が必要。そのためには、普段から絵本の力をつけておく。
- 時間はみんな24時間平等にある。「時間がない」ではなく「時間を作る」

授業が終わってから、
生徒さんにサイン

荒井良二/授業内で絵本を一冊仕上げます。



WAKKUN/まずは先生のデモンストレーション

飯野和好/三味線を弾きながら、授業はライブのよう





advice
&
scene

絵本わくわく塾

■講師
太田朋 スズキコージ 高科正信
tupera tupera はやしますみ
松田素子 WAKKUN (五十音順)

この「絵本わくわく」コースは平日の水曜日に授業があります。日曜日がお仕事などで通えない方や、このクラスの先生が魅力で遠方から通われるという方もいます。

このクラスだけの先生は tupera tupera さん、高科正信さん、絵本の編集者、松田素子さんです。日曜日の「絵本ゆっくり」コースとの違いは絵本のテキストなど、文章の勉強もします。

入塾する前によく聞かれる質問のひとつに、期間が長いので続くかどうか不安という方がいますが、授業もあと少しで修了する時期になりますと、意外と早くてしっかりと通えました、という方が多くいます。また仕事などで転勤になる場合、次年度に持ち越し制度もありますので、安心して通っていただけます。

このコースの先生で絵本作家の tupera tupera (亀山達矢) さんの授業のひとつに「スゴロク」があります。まずは皆さんでスゴロクのマスと自分のコマを作ります。作ったマスには止まりたくないものがいっぱい！ゴールが近づけば、スタートに戻るマスもあり、みなさん童心に戻って、思いっきり楽しんでます。

この授業は人気があり、修了しても毎年この授業に参加する方も多くいます。



tupera tupera / 巨大「スゴロク」作り



ツベラさんも
スゴロクの材料を制作



スズキコージ / 制作中
先生のお話して盛り上がる



tupera tupera / ワークショップ風景



WAKKUN / 絵描きになった
きっかけのお話



スズキコージ / 教室内で作った
作品の発表



松田素子 / 1冊の絵本を制作するのは……



高科正信 / 文章についてのお話とぜひ読んで
いただきたい本の紹介

絵本を読む力は、
絵本を作る力と同じ。
■ 絵本を作るときに、自分が
言いたいことを全ていれる
と、作者はわかっても読み手
は、わからない。
■ 絵に自身のない人は、好き
な絵・イラストを模写して
みる。模写することで構図や
配色の勉強になる。
■ 絵本を深く理解するには、
1冊の絵本を何十回と本気
で読むと良い。それで色々な
発見がある。
■ チャンスは誰の前にも均
等にある。それをつかむに
は、まず絵を描く、展覧会に
足を運ぶ、いろいろな情報を
知ること。



太田朋 / 生徒さんの質問に答える



版画の授業も
あります！

2020年のわくわくコースは休講のため、
tupera tuperaさん以外は前年度の写真です。



advice & scene

イラストじゅくり塾

講師

安齋肇 イナキヨシコ おさないまこと
たかいよしかず 寺門孝之 寺田順三
福田利之 弓削ナオミ (五十音順)

「イラストじゅくり」の授業は、年度によって多少異なりますが、オリジナルなキャラクター作りや本の装画を描いたり、また実用的な雑貨を作ったり、粘土を使って立体イラストを制作、と多彩な内容です。いろいろな授業を受けることで、あなたのオリジナルな絵を発見することもできます。普段の生活のなかで、絵は好きだけど、絵についてお話をできる友だちはそう多くないと思います。「絵話塾」に通われる生徒さんは、年齢も職業も住んでいる所(遠くは千葉、沖縄、四国、広島など)も異なりますが、イラストやアート、美術館などが好きという共通点で集まっていますので、友だちがしやすい環境です。イラストコースを修了されても、何人かでグループ展を開いたり、好きな展覧会を見に行ったりして、おおいに楽しんでます。また他の生徒さんのイラストを見ることで、刺激になったり励まされたりもします。先生方のテクニックも教えていただけるので、今までと違った技法も身につきます。



福田利之 / ワークショップの後、作品を講評



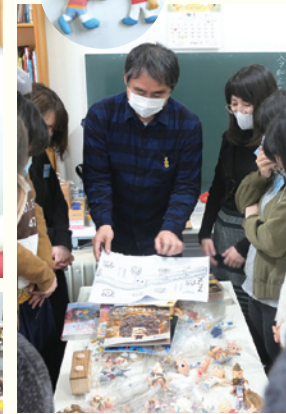
寺田順三 / 生徒さんの作品を講評する



弓削ナオミ / 先生の最終授業。みんなで記念撮影



イナキヨシコ
実用的な雑貨作り



ご自身のお仕事紹介

おさないまこと / 粘土を使って立体的な作品作り

9 イラストじゅくり塾

いろいろな作家の絵を知ることは大事なこと。そこからイメージしてオリジナルなイラストを生み出せる。上手くなるには沢山描くこと。テクニックを知りたいなら模写が一番。

■スケッチで物を描くときは、頭のなかでイメージしないで、対象物をよく観察して描いていく。

■幼児・子ども・大人の男女の特徴を考えて、描く練習をすれば人物のバランスが養われる。

■描くスイッチが入らないときは、無理して描かない。

■粘土などの立体物やカラージュ・雑貨も広い意味でイラストレーション。

advice

いろいろな作家の絵を知ることも大事

■イラスト(絵)は描く仲間や友だちがいて描けるもの

■イラストは雰囲気伝えることが大事。説明がなくても伝わるイラストが良い。

■今はネットで何でも調べられるが、情報は自ら動いて得ると人との出会いもあり、コミュニケーションから仕事に繋がる。

Love! Love! Love!



寺門孝之 / 授業内で描いた作品の講評



安齋肇 / 課題の発表。安齋さんがひとり一人にアドバイス

※安齋肇・イナキヨシコ・寺門孝之さんの写真は2020年度の画像です。

絵話塾 おすすめ図書

絵本やイラストを学ぶうえで、描く力が当然必要ですが、読む力も同じように大切です。ぜひ手にとって読み込んでもらいたい図書を選んでみました。全て手元に置いておきたい本達です。



絵本の世界1・2

110人のイラストレーター



(福音館)

雑誌「Janan」のロゴや「ぐるんぱのようちえん」で有名なマルチアーティストの堀内誠一さんが編集されたこの本は、時代を超えていつまでも残る作品集です。

『おちやのじかにきたとら』

作・絵：ジュディス・カー



(童話館出版)

突然お茶の時間に行儀のいいとらが現れ、食べ物を全部平らげてしまいました。明日も来るかもしれないと思いつつ、たくさんの食料を買い待っていました。とらは……。

『かしこいビル』

作・絵：ウィリアム・ニコルソン



(ベンギン社)

エミリーが、おばさんからの招待状をもらい、旅行をすることになりました。ところが大事にしている人形のビルを忘れてしまい、ビルはエミリーを追いかけに行きます。

『からすのパンやさん』

作・絵：かこさとし

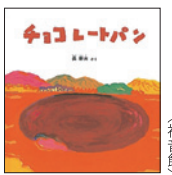


(偕成社)

からすシリーズの1冊。子育てをしながら、からすのパンやさんはいつも大忙し。ヘリコプターパン、はぶらしパンなど80種類以上のユニークなパンの絵は圧巻！

『チョコレートパン』

作・絵：長新太



(福音館)

チョコレートの池に、パンが歩いて浸かりチョコレートパンが完成。するとゾウやウサギ、リスなどが次々にやってきて、池に入ります。ナンセンス絵本の傑作。

『ねずみくんのチョコッキ』

作・なかえよしを
絵・上野 紀子



(ポプラ社)

おかあさんが編んでくれたねずみくんのチョコッキ。すると次々に動物がチョコッキを着て、最後にゾウが着ているところをねずみくんが見つけます。チョコッキは大丈夫かな！

『はなをくんくん』

作・ルース・クラウス
絵・マーク・シーモント



(福音館)

春の香りが漂ってきそうな絵本。モノクロで描かれた森のなかで生き物たちが鼻を「くんくん」させながら駆けていく。みんなどこに行くの？最後に見つけたものは……。

『わたしとあそんで』

作・絵：マリイ・ホル・エッツ



(福音館)

女の子が原っぱに行き、虫や動物たちに話しかけますが、みんな逃げてしまい誰も遊んでくれません。じっと座っている、そこへ……。さてどうなるでしょう。

銀のほのおの国

作・神沢利子 絵・堀内誠一



(福音館)

兄弟が異世界に迷い込み、敵と味方に別れて繰り広げられる闘いは、大人も充分に楽しめます。この秀逸なタイトルは、最終章まで読み進めると納得します。

『トムは真夜中の庭で』

フィリパピアス

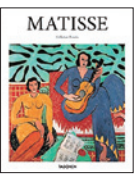


(岩波少年文庫)

叔母の家に預けられたトムは、友だちもなく退屈していました。真夜中に古時計が13時を打つのを聞き、昼間はなかったはずの庭園を見つけました。

Henri Matisse

アンリ・マティス



1869年フランス生まれのマティス。シンプルで鮮やかな色彩の作品が多く、晩年のカラージュ作品集「Jazz」は構図や色彩構成の参考になります。

Olle Eksell

オーレ・エクセル



1918年生まれのスウェーデンのグラフィックデザイナー、イラストレーター、文筆家。線と面を巧みに使ったイラストは、今でも新鮮な輝きを放っています。

※当塾の講師の書籍は割愛させていただきました。

2021年秋からスタートの講座

楽しく絵を描くために

ドローイング クラス

講師

イヌイ
マサノリ
Inui
Masanori

今年で2期目の「ドローイングクラス」は、イラストレーター・絵本作家のイヌイマサノリさんを講師に迎えて8ヵ月間学んでいきます。月1回のクラスで4時間(途中休憩あり)の授業です。「絵を描くことは楽しい」ことを目指して、いろいろなモチーフに挑戦していきます。また屋外でのスケッチも行うなど、絵に興味がある方や基礎画力を高めたい方には最適なコースです。

- 開講日>2021年秋から約8ヶ月
- 単位数>32単位 1単位=1時間
- 日 時>土曜日 12:00~午後4:30
- 定 員>15名程度(定員になり次第締切)
- 受講料>115,500円(税込)

(授業料 100,000円+通信費・雑費 5,000円+税 10,500円)

先生のお仕事紹介



天気がいいので、神戸港でスケッチ



作品の講評



イラストのスキルアップ

イラスト レベルアップ

講師

山内 庸資
Yamauchi
Yosuke

サタケ
ジュンスケ
Satake
Syunsuke

月2回の授業で約8ヵ月間学んでいきます。各自のイラストをよりレベルアップすることを目指し、構図・配色・技法など制作に関することから、作品の売り込み・コンペへの応募、イラスト描くためのパソコンのソフト紹介や SNS の活用方法などを継続的に学ぶことで、イラストに対する取り組み方・考え方・制作スキル・自作のプロモーション方法などを学んでいきます。

- 開講日>2021年秋から約8ヶ月
- 単位数>40単位 1単位=1時間
- 日 時>土曜日 午後5:00~午後7:30
- 定 員>15名程度(定員になり次第締切)
- 受講料>181,500円(税込)

(授業料 160,000円+通信費・雑費 5,000円+税 16,500円)



山内庸資/
作品のアドバイス



サタケジュンスケ/
プロジェクターを使
っての授業

文章を基礎から学ぶ

文章たっぷり コース

講師

高科 正信
Takashina
Masanobu

文章に特化した約9ヶ月間の講座で、伝えたいことがうまく伝わる魅力的な文章を書くことを目指します。基本となる原稿用紙の使い方、句読点の打ち方から、展開の仕方、推敲の際に気を付けることなど、文章を書く時に役立つことばかりです。

課題に対しても、一人一人に丁寧に指導されるため、確実に実力がつきます。基本は絵本や児童文学を書きたい人向けですが、エッセイや小説を書きたい方にもお勧めです。

- 開講日>2021年秋から約9ヶ月
- 単位数>40単位 1単位=1時間
- 日 時>土曜日 午後5:00~午後7:30
- 定 員>10名程度(定員になり次第締切)
- 受講料>181,500円(税込)

(授業料 160,000円+通信費・雑費 5,000円+税 16,500円)



講義中心の授業風景。Zoomで参加の生徒さんもいます

講師は変更になる場合もございます。ご了承ください。

荒井 良二
Arai Ryoji

● 絵本作家
イラストレーター



山形県生まれ。2005年には日本人として初めてアストリッド・リンドグリーン記念文学賞を受賞するなど国内外で高い評価を得る。『たいようオルガン』でJBBY賞を、『あさになったのでまどをあけますよ』で産経児童出版文化賞・大賞を、『きょうはそらにまるいつつき』で日本絵本賞大賞を受賞するほか、『みちのおくの芸術祭山形ビエンナーレ』を2014年～2018年まで務めるなど、その活動



の幅を広げている。最新刊は『子どもたちはまってる』(亜紀書房)

授業の進め方

僕の授業は、いつもお話から始まります。最近起こった事、読んだ本、気になる事など……。授業の後半では、冊子を使って1冊の絵本のようなものを作ります。まあ絵本の準備体操ですね。何も条件がないと作りにくいと思うので、こちらからテーマを決めて作ってもらいます。例えば、全部のページに1本の同じ線を描く・行って帰って来るお話にする等。こうした決まり事や制限があると、その中で最大限出来る何かをやってやろう！ 探してやろう！ として作るのではないかな。そこから創作のアイデアが生まれてくるのではないかな？ と思っています。

授業の進め方

2004年開講時から絵話塾の講師をしていましたが、しばらくお休みをして、2018年度からまた「絵本ゆっくり」コースを担当しています。また皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。授業は自作の絵本をカンカラ三味線を弾きながら、読み聞かせをします。また生徒さんが作った絵本のダミーまたは絵の講評をします。



飯野 和好

Iino Kazuyoshi

● 絵本作家
イラストレーター



埼玉県生まれ。長沢セツ・モードセミナーでイラストレーションを学ぶ。69年、雑誌「an an」に連載した『きみずかしやのピエロットものがたり』でデビュー。『ねぎぼうずのあさたろう その1』(福音館書店)で第49回小学館出版文化賞受賞。『小さなスズナ姫』シリーズ(偕成社)で第11回赤い鳥さし絵賞を受賞。『みずくみに』(小峰書店)で第20回日本絵本賞を受賞。最新刊は『おふろ、はいろ?』(あかね書房)。

絵本の制作以外に人形芝居の美術・衣装、絵本セミナーの講師など多方面で活躍中。またブルースハープ奏者としてライブ活動も行っている。

授業の進め方

シンプルな絵と短い言葉で作る表現を得意としています。授業では、8ページ絵本を作るところから始めて、最後は「自分のエピソード絵本」を作ります。絵本という枠に取まらないで、自分の作りたい形、大きさ、長さ、手法も自由に作ってもらいます。授業中にアイデア出しをする時は、机を回り、生徒さん達の話聞き一緒に相談に乗りながら進めていきます。



太田 朋

Ohta Tomo

● 絵本作家
イラストレーター



兵庫県生まれ。1994年よりポストカードの制作を始め、その後絵本も出版。『きみがはじまる』(学研)『うたたねネクルとネムくんに』(文研出版)等がある。シンプルな絵と言葉による作品は、若い女性を中心に人気が高く、イラストが入った雑貨やカレンダーもたくさん作られている。また出版物の表紙や挿絵、広告、アニメーションなども手に作品展を多数開催。



tupera tupera は亀山達矢と中川敦子によるユニット。2002年より活動を開始。絵本やイラストレーションをはじめ、工作・ワークショップ・舞台美術・アニメーション・雑貨など様々な分野で幅広く活動。絵本など著書多数。海外でも様々な国で翻訳出版されている。主な著書に『かおノート』『やさいさん』『パンダ銭湯』など。また『しろくまのパンツ』(プロンズ新社)で日本絵本賞受賞。NHK Eテレ「ノージーのひらめき工房」ではアートディレクションを担当。2019年アカデミー賞長編アニメ映画賞にノミネートされた、細田守監督の映画『未来のミライ』では、登場するキャラクターデザインを担当。京都造形芸術大学子ども芸術学科客員教授 <http://www.tupera-tupera.com/>

授業の進め方

ボクは絵本だけではなく、ファッション・舞台美術・ワークショップなど広い分野で活動している2人組ユニット、ツペラツペラの1人です。初回の授業では、今まで出版した絵本がどうやって誕生したのかを、種明かしていきます。日常の中には絵本になる題材が沢山あって、それを絵本に出来るかな……と、いつも考えているのです。『やさいさん』『パンダ銭湯』『うんこしりとり』はそんな日常のアイデアから誕生しました。みんなでもワークショップをする授業もあります。NHK E テレ「ノージーのひらめき工房」でも行っている、簡単な頭の体操から、「巨大すごろく」を作るワークショップまで、毎回楽しい授業です。

tupera tupera
亀山達矢

● 絵本作家



東京都生まれ。学研教育出版 幼児・児童書出版部に所属。『Pookal』『おはなしプーカ』の編集長を務める。今までに200冊以上の絵本を企画・編集する。担当した作品に『いつでも会える』(菊田まりこ)『パパはウルトラセブン』(宮西達也)『思いつき大百科辞典』(100%ORANGE)『ぼうしとったら』(tupera tupera) などがある。また絵本コンベン審査員など絵本に関する活動も多数。

授業の進め方

本を出版・販売する側の編集者として、客観的な目で作品を見て講評します。海外の絵本の見本市などにも出かけて、海外と日本を比較しての違いなども具体的にお話します。授業では主に「ダミー本」の講評を行います。その都度ワークショップなども行います。例えば「食べ物」の絵本が主流になってきたと感じた時には、皆さんにもそれに関連した絵本で好きな本はないか聞いたり、また食べ物のキャラクターを考えてきてもらうこともあります。絵本は時代背景も大きく関係しているので広い視野で作ることも大事だと思います。



木村 真

Kimura Makoto

● 編集者



静岡県浜松市生まれ。1968年新宿歌舞伎町の路上にて初個展、1971年個展「コージズキンの世界」開催。「イラストレーター」の名称ができた頃にデビュー。1987年『エンソくんきしゃにのる』(福音館書店)で小学館絵画賞、1988年『ガラスめだまときんのつものやぎ』(福音館書店)と1989年『やまのディスコ』(架空社)で絵本にっぽん賞、2004年『おぼけドライブ』(ビリケン出版)で第35回講談社出版文化賞絵本賞。2009年『ブラックンダー』第14回日本絵本大賞。2014年姫路市立美術館にて「スズキコージの絵本原始力展」を開催。最新刊は『そもそもオリビック』(玉川大学出版部)

授業の進め方

ボクの授業では、何か一つテーマを決めて毎回3時間のワークショップを行います。今まで作ってきたものは、例えば「帽子」や「靴」。それから「自分に起こった喜怒哀楽を表現してみよう!」など。作る作品は、ダンボールで立体作品や、コラージュの手法で平面作品など何でも全て自由です。ボクは音楽も好きなので、制作中によくCDをかけます。ジブシー音楽やジャズに至るまでジャンルも様々で、ボクもみなさんと一緒に作ります。作りながら旅の話もよくします。メキシコが好きで今まで何回も行ってその都度おかしなことに遭遇しました。作品が完成したら発表会です。さあ皆で楽しもうぜい!

スズキコージ

Suzuki Kohji

● 絵本作家
イラストレーター



講師 PROFILE | 絵本コース

高科 正信

Takashina Masanobu

児童文学作家



愛媛県生まれ。日本児童文学者協会会員。作品に『タンポポコーヒーは太陽のにおい』（理論社）、『モモコ』（文溪堂）、『ふたご前線』『ツバメ日和』『はくらの事情』（フレーベル館）など。本塾講師、荒井良二さんとの仕事に『おおきなおおきなさかな』『さよなら地底人』『さよなら宇宙人』（フレーベル館）。また本塾一期生、小林美佐緒さん作画の絵本『たまのりおたまちゃん』『がぶりがぶりのおかあさん』（いずれもフレーベル館）がある。他に『ぼっちたちの夏』（佼成出版社）『たぬきがくるよ』（絵・寺門孝之 BL 出版）、最新刊は『はしをわたってしらないまちへ』（福音館）などがある。

授業の進め方

児童文学作家で子ども向けのお話を書いています。普段は近所の海で釣りをしたり、釣ってきた魚で料理を作ったりして過ごしています。授業の初めには、最近読んだ本や好きな映画の話しながら、進めていきます。毎回テーマを決めてそれに合う絵本を、ボクが読み聞かせをしながら紹介していきます。授業のテーマは「幸福のあり方」「私とは誰か」「子どもの秘密」等です。絵本の中にこんなことが隠れているのか、こういうことを伝えたかったのか、という部分を説明します。絵本には沢山の魅力が詰まっています。あと、文章を書く課題を出します。原稿用紙の書き方も含めて添削してお返しします。

高島 那生

Takabatake Nao

絵本作家



岐阜県生まれ。東京造形大学美術学科絵画専攻卒業。絵本作家、イラストレーターとして活動中。第4回ピンポイント絵本コンペ入選『メガネをみてよ!』、第25回講談社絵本新人賞 佳作『むかったさきは...』。主な絵本作品に『はく・わたし』『チータ大セール』『でっこりぼっこり』（絵本館）『いぬのムーバウいいねいいね』（講談社）『おまかせツアー』『クリスマスのきせき』（理論者）『だるまだ!』『カッパのあいさつ』『ある混こねこね』（好学社）『あいうえおんせん』（くもん出版）『バナナじけん』（BL 出版）『カエルのおでかけ』（フレーベル館）で日本絵本賞を受賞など他多数。最新刊は『うしとぞん』（小学館） www.nao-takabatake.com/



授業の進め方

ボクは今までと違う視点で絵本を作ります。例えば「描きたいシーン」の絵を何枚か描いて、描いた絵から連想する「コトバ」をつなぎ合わせて絵本を作っていきます。こうすると予測できない作り方が出来ます。また、今まで自分が作ってきた制作エピソードや、皆さんの前で絵を描いて、描く順番、筆の運び方、色の混ぜ方などを直接見てもらうこともあります。たまに天気の良い日には外に出て、アイデアを見つけないで行くワークショップを行うこともあります。

土井 章史

Doi Akifumi

編集者



広島県生まれ。1988年頃から絵本の編集にたずさわる。1993年東京吉祥寺に小さな絵本の店トムズボックスをオープン。いままで300冊以上の絵本をトムズボックスの名で企画・編集する。多くの絵本作家のデビュー作に関わる。2003年から学研の月刊絵本『おはなしブーカ』の企画・編集を担当。また絵本のワークショップ「あとさき塾」を運営し、多くの絵本作家を輩出している。最新刊は『絵本をつくりたい人へ』（玄光社）。2019年、店舗を西荻窪に移転。

授業の進め方

トムズボックスの名で今までに300冊以上の絵本を編集しています。その経験を生かした編集者ならではの視点で、授業では主に「ダミー本」の講評を行います。また、作家さんとの制作秘話なども時々お話しします。子どもを喜ばせてみせる！ そんな心意気、意気込みを感じる作品をぜひ作って下さい。楽しみに待っていますよ！



京都府生まれ。京都精華大学美術学部デザイン学科卒業後、グラフィックデザイナーとなる。2008年度ギャラリーVie 絵話塾修了。第10回ピンポイント絵本コンペ『ねーねーのしっぽ』で優秀賞受賞。自然の匂いや温度を感じる大らかな作品や、動物たちをユーモラスに描き出した作品が人気。『とんとんとんだれですか?』（岩崎書店）『たんぼレストラン』（ひかりのくに）『どんどろめがね』（佼成出版社）『ねこぼん』（偕成社）など、絵本多数。最新刊は『ひだまりまりちゃん』（チャイルド本社）



授業の進め方

2018年度から「絵本ゆっくり」コースを担当している、はやしますみです。私の授業は、連続した4回のワークショップで、アイデアを練り、直すことを経験してもらいます。これが描きたい!と思いついたアイデアは、15場面の絵本にするまでに、自信がなくなったり、本当にやりたかった事を見失ったり、最初の輝きが鈍ってしまうことがあります。自分が一番作りたかった事に向き合いながら、絵本を一冊仕上げていきます。あと絵本作家になった経緯、出版社への売り込みの方法などのお話しをする予定です。みなさん最初から絵本作家の人はいません!必ず初めがあるのです。みなさんにお会いできるのを楽しみにしています。

山口県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。偕成社絵本編集部所属。後に『月刊MOE』の編集長を務める。1989年に偕成社を退社後、フリーで絵本を中心に企画・編集・評論の分野で活躍。これまで300冊以上の本の編集に携わる。また自然や科学の分野においても、企画・編集および執筆として活動している。



授業の進め方

これまで300冊以上の絵本の誕生に関わってきました。その誕生秘話と経過のダミーなどを具体的にお見せしながら、絵本が生まれてくるために最も大切な作品の根っこの作り方や育て方からお話ししようと思います。時代を超えて読み継がれてきた絵本の力を、もう一度再確認する話も織り交ぜながら進めていきます。「読む力」と「創る力」とはつながっています。その上で、皆さんの作ったダミーを、現実的な出版の可能性という立場から講評します。読者としてもこれまで以上に絵本を楽しめるようになって欲しいし、それが作家としての底力（根っこ）につながっていくことを願っています。

神戸市生まれ。本名、涌嶋克己(わくしまかつみ)。1986年の初個展以来、毎年、関西を中心に展覧会を多数開催している。1990年絵本『ほっ』を出版。物語を空想しながら絵を描く少年の頃の気持ちがこもった独特の作品は、数多くのファンから「WAKKUN」の名とともに親しまれている。阪神・淡路大震災の時にWAKKUNの描くガッツ君のキャラクターに励まされた人は多い。



授業の進め方

授業は「起承転結」のお話を四人一組で作ったり、大きな和紙に墨と筆で絵や言葉を描いたりします。あまり絵本と関係ないように思えるかもしれませんが、これも表現の大事な肝になります。後半は「じゃばら本」というものを使って一冊の作品に仕上げていきます。ボクがよく生徒さん達に言っているのは「上手く描こうとしない」ということです。上手く描くことよりもその時に感じた温度や湿度なども一緒に表現できたら素晴らしい。自分自身感じた心の震えまでもどんなやり方で作るといいのか、一緒に探していきましょう。

はやしますみ

Hayashi Masumi

絵本作家

絵話塾出身の先生です。



松田 素子

Matsuda Motoko

編集者



15 絵本講師プロフィール

わっくん

WAKKUN

絵本作家

イラストレーター



講師 PROFILE | イラストコース

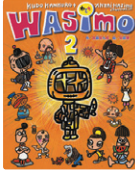
安齋 肇

Anzai Hajime

イラストレーター
アートディレクター



東京都生まれ。桑沢デザイン研究所デザイン科修了。TIS会員。音楽に関する様々なビジュアルから、キャラクターデザイン、雑誌連載、装幀、アニメーション、ナレーション、展覧会や音楽活動など多岐に渡る。1992年よりテレビ朝日系「タモリ倶楽部」空耳アワー、TV ドラマに出演することも。チョコベビーズ、勝手に観光協会、LASTORDERZ、宿題作品展オパンドス、フーレンズのメンバーとしても活動中。宮藤官九郎原作の絵本『WASIMO』や作品集『work anzai』ドローイング集『drow anzai』を出版。2016年初監督作品『変態だ』を撮る。



授業の進め方

ボクの授業では、毎回一人ずつに課題を出していきます。皆さんは、それぞれ描きたい絵、手法、好みなどそれぞれ違いますので、各自のやりたい方法をこの一年で見つけてほしいと思います。「絵話塾」は実験の場でもあります。また、絵の好きな、絵を描きたい人達が集まっていますので、いろんな描き方を試して皆の反応を見ていくと良いと思います。「絵話塾」を多いに活用してじっくりと楽しんで下さい。



イナキ ヨシコ

Inaki Yoshiko

イラストレーター



京都府生まれ。(有)ゴーズデザインを経て、2000年よりフリー。1996年玄光社イラストレーション「ザ・チョイス年度賞」特別賞受賞。2002年原宿・ROCKETにて初個展。石井好子『巴里の空の下オムレツ』においては流れる(扶桑社) 田辺聖子『残花亭日暦』(角川書店)等の書籍装画、『PARCO』やセレクトショップ『VIS』などの広告やノベルティグッズ、NHK ラジオ第2放送のテキスト「英語で読む村上春樹」のイラストを担当。「Polka dot」(服飾雑貨/京都)のショップカード・ロゴやテキストスタイルを担当。



授業の進め方

毎回雑貨作りを行います。自分が作って楽しく、身につけて嬉しいものを作っていきます。例えば絵を買うとなると少し勇気が要りますが、雑貨ですと気軽に手軽です。人にプレゼントするなどのコミュニケーションツールとしても使えます。授業で作るのは、年度によって違いますが缶バッジ、砂絵、名刺作りなどです。缶バッジも一枚の絵柄の中から、切り取る場所を変えるだけで全く異なる作品に仕上がります。見え方・見せ方は無限にあります。人に喜んでもらうと自分も嬉しく、制作の励みになります。

おさない まこと

Osanai Makoto

イラストレーター



神戸市生まれ。宝塚歌劇関係の制作のアシスタント、デザイナーを経て87年よりフリーのイラストレーターとなる。現在は東京在住。主な仕事としてNHK教育テレビ連続ドラマ「ミニモニ。でプレーメンの音楽隊」エンディングタイトル立体イラスト制作。JR 東海新幹線キャラクター。パルメザンチーズのキャラクター「パルメくん」。長野朝日放送テレビキャラクター「モーリーとりんごちゃん」。小学校の教科書『新しい算数』(東京書籍)の表紙。関西でも神戸須磨パティオのキャラクター「パティ」。毎日ランニング、ウクレレを楽しんでいます。



授業の進め方

イラストコースの中で唯一「立体」の授業を担当しています。ボクは「立体」を作って、カメラマンと組んで撮影するスタイルをとっています。イラストといえば平面作品を思い浮かべる方が多いと思いますが、粘土も画材の一つと捉えて使えば、絵の幅と可能性も広がります。授業では、物語の一場面を立体で制作し、撮影してカレンダーを作ります。背景や登場人物の服など、何でも皆さんの工夫で頭をひねりながら一緒に作ります。先生に教わるという受け身ではなく、自分達で考えて進んでいく力を身につけてほしいと思っています。

大阪生まれ。大阪芸術大学デザイン学科卒業。(株)京田クリエーション入社後、多くのキャラクターデザインを手がけ、イラストレーターとしても活躍。見る人を元気づけられる作品を作ることがモットー。代表作に明治「マーブルわんちゃん」、西宮市たび博キャラクター「みやたん」、招き猫とダルマを合体させた『ネコダルマンワールド』を展開。童心社『怪談レストラン』シリーズの装丁・挿絵、くもん出版絵本『おはなし・くろくま』シリーズなど多数。2001・2003・2006・2011年イタリアボローニャ国際絵本原画展入選。



授業の進め方

キャラクターデザインを中心に授業を進めていきます。絵の世界は上手い下手ではないんです。ボクの考えでは「やる・やらない」、「好き・嫌い」、「合う、合わない」の3つではないかと思っています。一歩踏み出せばその先必ず何かにつながるはず。でも、やめたらそこで終わりなんです。ボクが今この絵の世界にいられるのは絵を描くことをやめなかったからです。描き続けるためには何をすれば良いのか、授業でお話していきたいと思っています。またおすすめの本やマンガ、アニメ、映画、展覧会など毎回紹介していきます。



名古屋生まれ。大阪大学文学部美学科卒業。セツ・モードセミナー卒業。1985年第6回日本グラフィック展大賞受賞。光溢れる天使や、溶けるような夢や物語の世界を描き、個展をはじめ、書籍の装画、広告、ライヴペインティングなど幅広く活動中。著書に『納豆の大ドンブリ』(岩崎書店)『てらびか映画日誌』(風濤社)、『DREAM DREAM』(ブルース・インターアクションズ)、『天使のカレンダー』(リトルモア)絵本『ぼくらのオペラ』(イースト・プレス)など多数。2010年公開の映画「人間失格」で主人公が描く絵を担当。現在、神戸芸術工科大学教授。



授業の進め方

主に課題を出して講評する形をとっています。これまでに出した課題の例で言いますと、「わたしのアイドル」「変身願望」「読書感想画」など。今はネットでいくらでも検索できるので、調べてもあまりわからないような、自分自身で考え、想像できる、そうせざるを得ないような課題を、と思っています。絵を描くことは、太古から人類が今まで永く生み出してきた行いです。いまあなたが絵を描いたとすると、それは人類史上何番目の絵になる訳です。歴史的瞬間なのです。絵を描くとは一体どういうことか。そういった大きい広い視点で見ていくことも含めて、皆さんと「絵」について深く話し合っていきたいと思っています。

たかい よしかず

Takai Yoshikazu

HAPPY CREATOR



寺門 孝之

Terakado Takayuki

画家・イラストレーター



17
イラスト講師プロフィール

大阪生まれ。2000年カムズグラフィック設立。以降、関東・関西で作品展多数。独特のレトロな作風で愛らしい動物たちを描いた作品は、どの世代にも人気がある。オリジナルの雑貨やぬいぐるみも多数。絵本『タビの雑貨屋さん』(学研)『カルルとふしぎな塔』(白泉社)『ボクらはオコジョのおわりさん』(佼成出版社)『ようこそぼくのおともだち』(あかね書房)等があり、『カルルとふしぎな塔』はアニメーションにもなっている。アメリカのブランド「chronicle Books」で多数のグッズデザイン・イラストを担当。世界中で販売され人気を博している。2019年阪急うめだ本店のバレンタインのディスプレイを担当。

授業の進め方

文字と絵の構成を考えながら、「本の装丁」「カレンダー」「パンフレット」等の課題を出し、講評します。イラストは原画が完成というよりも、人の目に触れるのは印刷された状態のものがほとんどです。どのような状態で完成まで持っていくのか、色の濃淡や文字の配置など細部まで計算して描いていきます。また、絵は描かないと上手くはなりません。そしてそれを人に見てもらわなければならないのが大切です。授業では他の生徒さんの作品もしっかり見て、どうやって描いているのかも聞いて吸収していきましょう。



寺田 順三

Terada Junzo

イラストレーター



講師 PROFILE | イラストコース

福田 利之
Fukuda Toshiyuki
イラストレーター



大阪生まれ。大阪芸術大学グラフィックデザイン科卒業後イラストレーターに。エディトリアル、装丁、広告、絵本、テキスタイルデザインの他、ムーンライダーズ、スピッツのCDジャケットなども手がける。主な著書に作品集『benoito』(ユトレヒト)、『コジナ帖』(ワールドコム)、『福田のフォト絵』(ヴィレッジブックス)『ミニカーミュートだいかつやく!』(アリス館)など。最近では「十布(テンブ)」というブランドで様々な種類のテキスタイル、布プロダクトを制作する活動もしています。



授業の進め方
時間内に完結するワークショップ形式で授業を進めていきます。主に「コラージュ」という手法で、切ったり貼ったりしながら制作してもらおうことが多いです。平面に描くだけが絵ではありません。コラージュはスピード感や引き算が大事です。授業でやったことをこれで終わりにせず、それを更に自分なりに発展させて、やっていって下さい。イラストレーターになりたい人は大勢いるので、他の人がやらないようなことをしなないと埋もれていってしまいます。常に新しいことを探し試して挑戦してほしいと思います。

弓削 ナオミ
Yuge Naomi
イラストレーター



大阪生まれ。京都芸術短期大学(現京都造形芸術大)ビジュアルデザインコース卒。デザイン事務所勤務後、イラストレーターとして活動。雑誌・書籍・CDジャケット・広告ポスター・化粧品パンフレットなどに作品を提供。個展やグループ展多数開催。女性や猫をモチーフにした作品が多く、どこか懐かしさを感じる世界を、墨・アクリル・デジタル彩色などで表現しています。元専門学校非常勤講師。愛猫家。

授業の進め方
楽しむこと。見つけること。を大切にしながら制作します。いろんな画材を使いながら、描き方のノウハウと、新しい表現方法と一緒に広げていきましょう。イラストを描いて発表することは、自分をさらけ出すこと。また、自分だけの世界で満足せずに、みんなの作品を見て刺激を受け、ステップアップしましょう。

kaiwajuku
OB・OG
卒業生の声



絵話塾で学んだことを活かし、修了後も継続的に作品展を行ったり、公募展に出品したり等、活動を続けています。またプロとして活躍している方も多く、ここでは一部だけですが、卒業生の声を紹介いたします。

尾崎カズミ
イラストレーター
イラストコース修了



絵話塾ではプロの作家の先生方に作品を見ていただけるのがとても勉強になりました。課題提出は大変でしたが、毎回必ず新しい発見がありその経験が今の仕事にも繋がっていると思います。たくさんの出会いもありとてもいい経験ができると思います!

伊東ユウスケ
イラストレーター
イラストコース修了



自分の知らない世界観にたくさん触れられたこと、絵を描く仲間と出会えたことが何より大きかったです。絵は習えば上達する訳でもないですし、絵話塾に入ればプロになれる訳でもないと思います。それでも授業を受けて、制作について語る仲間と出会える事は、何事にも替え難い体験だと思えます。

mizobatasaki(ミゾバタサキ)
アーティスト
絵本コース修了



私が一番面白い!楽しい!と思ったところは、絵本のことを知れたことです。苦勞して制作された!という話を聞いたり、昔から愛されているお話を分析して「ここが良い!」「この結末はどう思う?」など、絵本の中に入って想像し、講師の方やクラスの方と話せたことです。

早瀬あつこ
イラストレーター
絵本コース修了



絵話塾は素敵な出会いと、学びがたっぷり詰まった空間!先生方からいろいろな視点でたくさんアドバイスをいただきました。楽しいワークショップや技法は、すぐに役立ちました。修了してもギャラリーの展示を見に来ては、実家のようにくつろいでいます。

他卒業生は絵話塾のサイトをご覧ください。http://galleryvie.jp/obog.html

Q 案内の冊子を見て、特別コースがあるのですね。どんなコースですか?

特別コースは一年間3コース(秋から始まる「ドローイング」「イラストレベルアップ」「文章たっぷり」も含む)を受講できるシステムです。絵本もイラストも興味ある方は集中的に勉強できるので、受講料も含めてお得なコースです。ぜひご検討ください。

Q 他のコースの授業も受けてみたいのですが、受講できますか?

在校生・卒業生であれば、事前に予約を取っていただきましたら他のコースの授業もスポットで受講することができます。この場合は用意する持ち物などもありますので、遅くとも1週間前までに予約してください。

Q 絵話塾に申し込みたいのですが、その前に授業見学はできますか?

はい、授業の見学・体験ができます。スケジュールをお知らせしますので、ご希望の授業日がありましたら、メールまたはお電話で受付しています。なお、授業日によって定員オーバーのときは見学ができませんので、ご容赦ください。

Q 絵本の公募展に出たいのですが、何か注意点がありますか。

公募展(コンペ)の種類は数多くありますが、おすすめは、東京のピンポイントギャラリーが主催している「ピンポイント絵本コンペ」と「講談社絵本新人賞」です。この二つは絵本作家になる近道のひとつです。さらに詳しいことはスタッフに聞いてください。

絵話塾
tel.078-332-5808
kaiwajuku@galleryvie.jp

この他にわからない事がありましたら、メール・電話でご遠慮なくご質問ください。

Q 絵本のクラスは水曜日と日曜日があるのですが、何が違うのですか?

どちらも絵本のコースですが、大きな違いは、水曜日は児童文学作家の高科正信さんの文章の講義があることです。またツペラ・ツペラ、松田素子さんは水曜日。荒井良二・土井章史・木村真・高島那生さんは日曜日のご担当です。

Q 家がすこし遠いのですが、生徒さんは近くの方が多いのですか?

意外と近くの方は少なく、京都・奈良・大阪辺りから通われる方が多いです。今まで一番遠い方は千葉や沖縄の方もいました。またブラジル在住の日本の方も日本に戻られた時に受講されています、皆さん時間をやり繰りして通われています。

Q 授業料以外で指定の画材などは、購入する場合がありますか?

指定の画材はありません。ご自身が使いたい画材で構いません。またどんな画材がいいのかわからないときは、スタッフまたは先生に授業後に相談していただくOKです。また使ったことのない画材に挑戦するのも勉強になります。

Q 仕事で転勤になって授業に参加できなくなりました。どうすればいいですか?

1年の間にいろいろなことがありますね!仕事・結婚・出産など……。安心して下さい。通えなくなった場合は、残りの授業日数を来期に持ち越しますので、落ち着きましたら、また授業に参加することができます。

Q 授業を休んだとき、内容等は教えていただけるのですか?

「絵話塾だより」というブログに授業内容を載せています。それを見ていただいたうえで、授業内容を説明します。また配付資料がありましたらお渡しいたします。
●絵話塾だより(ブログ)
http://blog.goo.ne.jp/kaiwajuku

Q コロナ禍で授業が休講になった場合はどうなるのでしょうか?

休講になりましたら、振替授業を落ち着いたときに、改めて行います。もしくは休んだ授業回数のスポット受講カードをお渡しいたしますので、安心して下さい。

Q 家では集中して絵を描けないのですが、教室に来て絵を描くことはできますか?

教室が空いている日でしたら、使っていただいて構いません。時間は12時以降で事前に連絡をいただきましたら、自由に教室を使ってください。教室は空調や除菌装置もありますので安心して使ってください。

お申し込みから入塾までの流れ

- 1 コース選定**
- 絵本ゆっくり塾
 - 絵本わくわく塾
 - イラストじゅく塾
 - 特別会員コース
- 4コースがありますので、興味のある講座をお選び下さい。
※秋からの講座「イラストレベルアップ」「ドローイングクラス」「文章たっぷり」の3コースは、別の申込用紙になりますので、ご希望の方はお申し出ください。
- 2 申込方法**
- 郵送
 - 当塾での受付
- Eメールでのお申し込みも受付しております。お名前(ふりがな)・希望コース・ご住所・連絡先(固定電話または携帯)・メールアドレスを絵話塾まで送信してください。確認がとれましたら受領書を送付いたします。
FAXでの仮申込もできます。
(後ほど申込用紙を郵送またはご持参下さい)
fax 078-332-58007
※入塾に際し、簡単な面接を行う場合があります。

- 3 郵送での受付**
- 右頁の申込用紙に写真を貼付し、必要事項をご記入のうえ、ギャラリーVie(ワイ) 絵話塾までお送り下さい。
〒650-0022
神戸市中央区元町通3-2-15
セントラルビル元町5F
ギャラリーVie(ワイ)
絵話塾まで
- 4 当塾での受付**
- 右頁の申込用紙に写真を貼付し、申込書に必要事項をご記入のうえ、「ギャラリーVie(ワイ) 絵話塾」までお持ち下さい。
※場所は下記の地図を参照
- 5 必要なもの**
- 写真(申込書貼付用)
 - 申込書(自筆)
- 写真は本人と分かるものであれば携帯で撮ったものでも構いません。
- 6 申込受付期限**
- 授業開始日の3日前
当日消印有効
- 但し、各コースとも定員になり次第いし、申し込み受付は終了させていただきます。

- 8 お支払い方法**
- 支払時期はご相談に応じます
受講料はお申込みから1ヵ月以内に下記の方法でお支払い下さい。
- 銀行振込
三菱UFJ銀行
神戸中央支店 普通口座
口座番号 3892520
名義 ギャラリーVie
村上政行(ムラカミマサユキ)
 - 郵便振込(ゆうちょ銀行同士)
記号14320 番号48425941
 - 郵便振込(他行からの場合)
店名 438 (ヨサンハチ)
普通・口座番号4842594
名義 村上政行
 - 現金書留/受講料と申込書を同封のうえ、ギャラリーVieまでお送り下さい。後日、領収書を郵送いたします。
 - 現金/ギャラリーVieまで直接お持ち下さい。
 - 分割払/ご相談に応じます。

078-332-5808
kaiwajuku@galleryvie.jp
※見学・体験受講は各コース1回ずつ



7 見学・体験受講

各講座とも見学・体験受講を随時受付しておりますので、ご希望の方は絵話塾までメールまたはお電話で、お申し込み下さい。

お問い合わせ先・申込書送付先
〒650-0022
神戸市中央区元町通3-2-15
セントラルビル元町5F
ギャラリーVie 絵話塾
tel 078-332-5808
fax 078-332-5807
e-mail kaiwajuku@galleryvie.jp

■ 絵話塾の場所
JR・阪神元町駅西口下車南へ徒歩約3分。
ビルの1Fにホリズカフェがあります。
ビルの左側の扉から入って奥にあるエレベーターで5Fです。

右の申込用紙を
コピーしていただいても結構です。

右の申込用紙を
郵送または
直接
ご持参下さい

授業スタート

- 絵本ゆっくり塾(日曜日)・・・7月下旬頃
- 絵本わくわく塾(水曜日)・・・7月下旬頃
- イラストじゅく塾(土曜日)・・・7月下旬頃

✉ kaiwajuku@galleryvie.jp

● ホームページ
https://www.galleryvie.jp

● 絵話塾だより(ブログ)
http://blog.goo.ne.jp/kaiwajuku

絵話塾だよりは授業内容、次回のお知らせ等の情報が載っています。

- フェイスブック
facebook.com/kaiwajuku
- Twitter
twitter.com/kaiwajuku
- Instagram
kaiwajuku_insta

受講料

- 絵本ゆっくり塾
 - 絵本わくわく塾
 - イラストじゅく塾
 - 各講座 年間受講料
- | | |
|---------------------------|----------|
| 入会金 | 33,000円 |
| 年間の通信費等・雑費 | 5,500円 |
| 授業料 | 212,300円 |
| 合計 | 250,800円 |
| (税抜価格 228,000円、税 22,800円) | |

● 特別会員

- 下記の中から好きな3コースを受講できます。
- 絵本ゆっくり
 - イラストじゅく
 - 絵本わくわく
 - イラストレベルアップ
 - ドローイングクラス
 - 文章たっぷり

● 授業料

- | | |
|---------------------------|----------|
| 入会金 | 33,000円 |
| 年間の通信費等・雑費 | 5,500円 |
| 授業料 | 396,000円 |
| 合計 | 434,500円 |
| (税抜価格 395,000円、税 39,500円) | |

2021年度
第18期生 申込用紙



申込日 年 月 日

ふりがな _____

氏名 _____

男・女 ※男女の記入は自由です。

生年月日 ※生年月日の記入は自由です。
年 月 日

受講コース(ご希望のコースを○で囲んで下さい)

- 絵本ゆっくり塾A 14:00~16:00 B 17:00~19:00
(日曜日) Bクラスは10名以上で開講
- 絵本わくわく塾 14:00~16:00
(水曜日)
- イラストじゅく塾 14:00~16:00
(土曜日)
- 特別会員 左下に内容を記しています。
特別会員コースの受講料は左記参照

住所 〒

都道
府県

連絡先

TEL

携帯

FAX

E-mail パソコン

携帯

※授業の連絡に必要です。アドレスをお持ちの方は必ずご記入下さい。

勤務先(学校)

※記入は自由です。

ご注意

各講座とも先着順に受付しておりますので、定員になり次第締め切らせていただきます。受講料はコースの開講ができない場合にのみ、全額返金いたします。中途退学による返金はいたしませんのでご了承下さい。



kaiwajuku

絵話塾



お問い合わせ・申込書送付先

ギャラリーヴィー 絵話塾

神戸市中央区元町通3-2-15

セントラルビル元町5F 〒650-0022

tel.078-332-5808

fax.078-332-5807

✉kaiwajuku@galleryvie.jp

●ホームページ

<https://www.gallery.jp>

●絵話塾だより(ブログ)

<http://blog.goo.ne.jp/kaiwajuku>

●フェイスブック

<facebook.com/kaiwajuku>

●Twitter

<twitter.com/kaiwajuku>

●Instagram

kaiwajuku_insta

JR元町駅

阪神元町駅

●ウインズ神戸

元町商店街

セントラルビル元町5F

ギャラリーヴィー

絵話塾

製菓専門学校

栄町通

●南京街

●南京町
広場

●西安門

●大丸



<http://www.galleryvie.jp>